巻　頭　言

京都市立病院紀要第40巻2号をお届けいたします.

本号の特集は第30回京都市立病院地域医療フォーラムの内容です．アドバンス・ケア・プランニング（ACP）をテーマに，佛教大学の濱吉教授に「その人らしいいきかたを支えるために～アドバンス・ケア・プランニングを実践する～」という演題名で特別講演をいただき，その実践と課題について，医師会の川口先生，当院の國島部長，訪問看護ステーションの西田さんにそれぞれの立場からの講演をいただきました．このコロナ禍で予期せず命を落とされた方も多数おられることを鑑みますと，ACPつまり自分の終末期の人生について前もって考えておくことの大切さに改めて気付かされます.

他には，4診療科から研究2題と症例報告2題が掲載されておりいずれも興味深い内容です．今年は学会発表にもいろいろ制限を受けた年でしたが論文の執筆には大きな支障はないと思いますので，今後も多くの診療科からの活発な投稿を期待しています.

さてこの2020年,「なんて年だ」と言いたくなるような1年が終わろうとしています．振り返ると令和2年は全世界が新型コロナウイルスの対応に忙殺された1年でした．およそ100年前のスペイン風邪以来1世紀ぶりのパンデミックに，世界中が混乱し，その対応に今なお苦慮しています．当院でも7月には院内感染を経験し，救急外来の停止，外来・入院診療の制限，一部病棟の閉鎖など，まさか考えても見なかった経験をしましたが，感染の広がりを最小限に抑え速やかに元の診療に戻れたのは，職員一人ひとりの協力の賜物と感謝するとともに，当院職員の底力を実感しました．また，その後の陽性者の院内発生に対して迅速な対応ができているのは，クラスターを乗り越えた経験のおかげだと感じています.

今年は何もかもが異例で，人が集まる機会には全て何らかの制限が加えられ，我慢が強いられ続けました．この状況は，有効なワクチンの接種が全世界に行き渡るまで続くものと思います．皆さん，大変だとは思いますが今しばらくは堪えて下さい．このピンチの後には必ずチャンスが巡ってくると信じて全職員が一丸となって乗り越えていきましょう.

最後になりましたが，本号の執筆，校正，編集に携わっていただいた皆さんに深謝いたします.

令和2年12月

京都市立病院機構京都市立病院
院長　黒　田　啓　史